

緊急討論会

妖怪と幽霊とお化けはどう違うのか？

M 「コロナで休館していたら春が終わり、もう夏よ！夏といえば怖いお話！今年は怖さの中にもキュートさを感じる妖怪について語りましょう。妖怪ってなんだろう？」

F 「架空の生き物？幽霊は死んだ人間の霊ですよ。」

M 「幽霊はわかりやすいけど、妖怪とお化けの違いがよくわからない。」

F 「お化けは幽霊の可愛い言い方とか？白くてオ●Q みたいな感じですよ。」

M 「ああ・・・毛が3本のやつね。」

S 「あの、先ほど書架でこの本を見つけたので持って来たのですが・・・」

M 「なにになに？『日本の幻獣図譜』。幻獣とはまた新しい言い方だね。」

S 「アマビエも載ってるんですよ～」

M 「ほんとだ！アマビエは図書館入口にもお札を貼ってますよ～。・・・それはそうとこれはなんだ？これが人魚？？？」

F 「ずいぶんお馴染みの人魚とはかけ離れているような。」

S 「魚の体にヒトの頭だけ乗ってますね・・・。人面魚的な。とりあえず姫ではない。」

M 「人魚ってさ・・・妖怪なの？」

F 「人魚姫が妖怪だったらメルヘンではなくホラーですよ。ア●エル可哀想。」

M 「じゃあ何よ？」

F 「異種族ってやつじゃないですか。ファンタジーに出てくるエルフとかと同じの。」

M 「また違うカテゴリが・・・っ。むむむっ鬼●郎に出てくるやつは妖怪よね？」

F 「多分・・・。でもテーマソングには『お化け』ってあったような気がします。」

M 「とりあえず、死んだ人間の霊ではなくて、なんかそこにいるかないかわからないモノの総称が妖怪、もしくはお化け。これでどうだ！」

S 「幽霊より妖怪の方が親しみやすいし陽気な感じがします♪」

F 「妖怪のヨウは陽気のヨウ♪」

M 「ポジティブにまとまったわね！でも今のご時世、妖怪を見たとしても絶対良くできたコスプレとかと思われそう。」

S&F 「妖怪が生きるのも難しい世の中・・・(笑)」

ブログやってるよ！ <http://sanda-city-lib-ya.sblo.jp/>→



ほんだらけ

2020.8.1

この世のモバじゃないかもねえ？

今年の夏休みは短いから、肝試しのお化けだって大忙しなんじゃないかな～。
幽霊よりはちょっと親しみありそうな妖怪限定で特集します！

『昨日の僕が僕を殺す』 太田紫織 著

KADOKAWA 2018年刊 F/オオ



ロシア系クォーターのルカ(男)が訪れたのは亡き叔母が好きだった欧州パンの店「フレイプ・ソーリ」。あるはずのないモノが見え、さらに重い過去を背負うルカはいつも他人と距離を置こうとしてしまう。そんな時に訪れたパン屋のイケメン店長・汐見も、犬っぽくて無邪気な店員の榊も、ルカの心情や過去も何もかも知っているようで・・・。気になるその正体。どうやらこの世はヒトではないモノといつの間にか共存しているみたいですよ？ あやかし系トラブルに巻き込まれまくるルカの心の成長が気になるシリーズです。

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA(ヤングアダルト)コーナーでご覧いただけます。

2か月に1度、年6回発行予定です。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

『夜行』

テーマは、「ホラー・怪奇」。
夏の定番。でも、本はバラエティーに富んでいますよー。

鞍馬で行方不明になった学生時代の仲間・長谷川さんを探し、10年振りに鞍馬に集まった5人。5人が語る不可解な思い出の全てに岸田道生という画家の連作、「夜行」が現れる。長谷川さんはどこへ消えたのか？ 岸田道生は一体何者なのか？ どこまでが現実でどこから幻なのか？ 読み返すほど引きこまれる全五夜が、読者を夜の魔境へといざなう。

P.N. 睦連合黒えだまめ隊 (高校2年生)



森見登美彦：著
F/モリ

小学館 2016年刊

「こんな本、棚から見つけました」のコーナー

このコーナーでは、スタッフが棚を見て“再発見”をした本を紹介しませう

『日本語のニュアンス練習帳』

中村 明著 2014年刊 岩波書店

突然ですが、あなたは「ないものはない」という表現がもつ2とおりの意味を説明できますか？ 最近では、言葉の選び違いで誤解を招くことも少なくないようです。この本は、そんな言葉の微妙な違いをわかりやすく説明してくれます。

なんか違う、そんな言葉について深く知れば、より正確に自分の思いや考えを伝えることも可能でしょう。SNSなどでのやりとりが増える今だからこそ、読んでおきたい一冊です。



810/14

新着図書 Pick Up

『英語バカのすすめ』 横山 雅彦著 2020年刊
筑摩書房

「英語って、どうしたら身につくの？」
そんな悩みに一つの方法を紹介してくれる本です。
著者は、海外留学をしたことはありませんが、英語をマスターした強者。空手道の師範でもある著者は、英語習得は「道」であり、ご飯を食べているときもお風呂に入っているときも、いつでも英語のことを考えるぐらいこのことが必要、修行と同じだと説きます。英語について質問したいときは臆さずに、英語話者に接していく積極性は何を学ぶにも重要なことだと思わせられます。英語を習得したい人はぜひご参考に！



830.7/2

YA世代のために血を吐く思いで名作を紹介するコーナー 『自然と愛と孤独と エミリー・ディキンソン詩集』

エミリー・ディキンソン：著 中島完：訳1989年刊 国文社

自然はほとんど黄色を使わない 日没のためにすっかり残します



931/ディ

エミリー・ディキンソンは18世紀のアメリカの女流詩人。学校を卒業後は病院に行く以外は、ほとんど家から出ることなく詩を書き続けました。家の中にずっといる状況が、コロナ禍の現在に似ている気がして、ふとディキンソンのことを思い出しました。家の中からどんなふうに見つめていたのか、そして、自己の内面をどのように見ているのか。彼女の詩の世界を味わってみてください。